

大腿骨地域連携パスの使用率

【指標の説明】

パスとは、良質な医療を効率的、かつ安全・適正に提供するための手段として開発された、疾病ごとの診療計画をいいます。

手術後にリハビリテーション等が必要となる疾病では、手術担当病院と転院先のリハビリテーション実施病院・施設とが患者さんの診療計画を共有し、それぞれが役割分担して治療を行います。

このシステムを地域連携パスといい、大腿骨地域連携パスは大腿骨頸部骨折に関する地域連携パスです。地域連携パスの運用は、医療連携がスムーズに行われ検査等の重複がなくなる、患者さんが診療計画を把握することで安心して治療に臨める、といったメリットがあります。

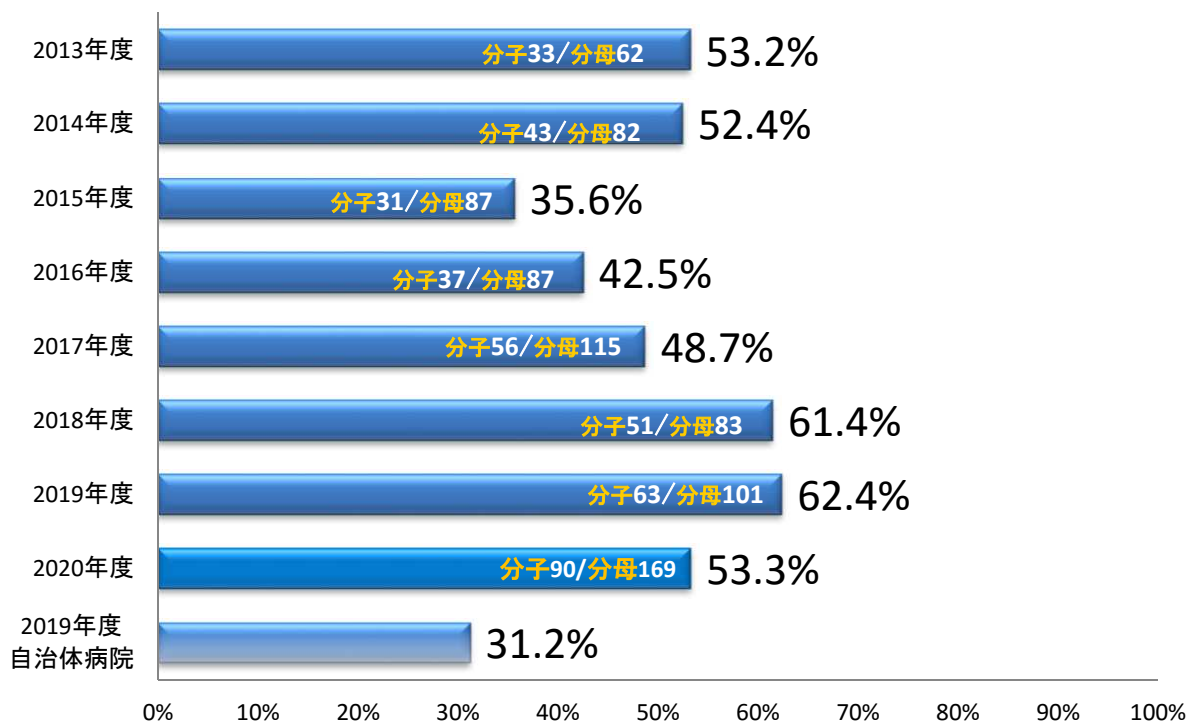
【定義】

全国自治体病院協議会「医療の質の評価・公表等推進事業」の定義に準じています。

分子 分母のうち、「地域連携診療計画加算」が算定された症例数

分母 下記のすべてを満たす患者

- ・退院日が調査期間内に含まれる(死亡退院を除く)
- ・大腿骨頸部骨折の患者(ICDコード S720 \$ 大腿骨頸部骨折)
- ・次の手術を行った患者
 - K0461 骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿(ただし、大腿に限る)
(レセプト電算コード 150019210)
 - K0811 人工骨頭挿入術 肩、股(ただし、股に限る)
(レセプト電算コード 150049510)



数値比較: 全国自治体病院協議会公表データのうち500床以上の病院の2019年度平均値
参加病院全体(139病院)の平均は19.4%